

さいくうあと通信

発行 明和町 齋宮跡・文化観光課
(明和町大字馬之上 945 番地)
電話: 0596-52-7126 FAX: 0596-52-7133
E-mail: saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

～大淀特集～

「大淀海水浴場で身も心もリフレッシュ！」

みなさん「大淀」という地名をどのように発音されますか。「おいづ」でしょうか、それとも「おおよど」でしょうか。地元の方にとっては「おいづ」の方が馴染み深いのではないのでしょうか。ただ、『大淀郷土史』などの文献を見てみると、古くは「おおよど」と呼んでいたものが江戸時代の中頃から「おいづ」に変化したそうです。

大淀の港はかつて「尾野湊おののみなと」とも呼ばれ、伊勢湾の中でも屈指の良港でした。また、都人の歌や文学にも数多く取り上げられた「歌枕」の地でした。『伊勢物語』では、狩の使として齋宮を訪れたありわらのなりひら在原業平が尾張国に旅立った港として登場します。

さて、大淀は齋王とも深いつながりのある土地です。

大淀漁港の近く、民家と民家の間に「尾野湊御被場みそぎばあと跡」と刻まれた石碑が建っています。看板に従い細い路地を入ると、ちょっとした高まりの上に1基の石碑があります。碑の裏面には「齋王神嘗祭参向ノ前八月晦日尾野湊ニ御禊ヲ行ハセラルスノ地其ノ御遺蹟ナリ」とあり、齋王が毎年9月に伊勢神宮で行われる神嘗祭に向かう前に大淀で禊みそぎを行ったことを説明しています。

齋王は、1年の内に6月と11月の月次祭と9月の神嘗祭の三度、伊勢神宮に赴きました。禊は祭の前月の晦日に、月次祭は祓川、神嘗祭は大淀で行いました。齋王の最も重要な仕事である神嘗祭に出るためには、大淀での禊は欠かせないものだったのです。

今年も暑い夏が近くなりました。今夏は大淀海水浴場で納涼と「禊」の海水浴はいかががでしょうか。



齋王が神嘗祭に向かったルート

【伊勢神宮に仕える皇女】より引用



尾野湊御被場跡の石碑

コラム 歴史の道から探る王朝人の想い①

齋宮歴史博物館へ続く歴史の道。この道に二十四首の和歌の歌碑が設置されているのはご存じですか？

実はこの和歌はすべて齋宮に関係あるものばかりです。

このコラムでは、和歌の内容に触れながら、平安の王朝人の想いや暮らしを探っていきます。

今回の和歌は今の季節にぴったりなこの一首です。

いかにせん 今日おおよどのはまにきて

あやめやひかむ かひやひろはむ

(大意) どうしようかしら。今日大淀の浜に来て

菖蒲を引こうかしら。それとも貝を拾おうかしら。

作歌時期は長久元年(一〇四〇年)五月。詠み人は不明ですが、おそらく良子内親王に仕えていた齋宮寮の官人であるとされています。

あやめは根茎が長いので、その根の長さを競い合うとともに、和歌を詠みあう「根合」という歌会、さらに「貝合」といった歌を作る遊びがありました。これらは八歳で齋王になられた良子内親王を慰めるために齋宮寮で賑やかに催されていたようです。

あやめやノハナシヨウブを樂しんだり、大淀の浜で貝拾いをしたり：

おおよそ千年前と現在の初夏の楽しみ方はあまり変わっていませんね。

今年には王朝人に想いを馳せながら初夏を感じてみてはいかががでしょうか。





身近な歴史

齋宮のなくなったあと

いま齋宮の建物や設備はすべて地下に埋もれてしまっています。それらは最後の齋王である愷子内親王が京都に帰ってしまった西暦1272年以降、急速に埋もれていきました。

その理由は、齋宮の特別な役割と深く関係しています。すなわち、齋宮は常にあるものではなく、齋王が伊勢にいる期間しか使われませんでした。都に帰った後と再び伊勢に来るまでの間は、放置されており、来るときは造り直したと考えられています。

そのため齋宮がなくなったあと、齋王の屋敷や、それを支えた人々の建物、倉庫などは、ほとんどそのままにされていたと考えられます。室町時代に書かれた紀行文によると、柱や鳥居が倒れたまま捨てられ、草木が生い茂っていたと書かれています。ただ、齋宮は人々に忘れ去られたわけではなく、伊勢神宮への参宮ついでに、旧跡としてたずねる観光名所のようなものになっていました。

幕末になると齋宮も大きな転換点を迎え、齋宮を復活させようという動きが出てきます。それは武家や神官によって行われ、次第に大きくなっていきました。また、それと同時に地元齋宮に住む住民たちによる保存運動も始まりました。この保存運動は、昭和の終わりに齋宮が発掘調査されたため、一気に機運が高まり、史跡に指定され現在も保存され続けています。

しかし、地元住民の保存運動なくしては齋宮の保存はできなかったと言われています。その足跡は今も齋宮に残っており、その代表的なものが、いつきのみや歴史体験館と齋宮跡休憩所のあいだに建っている『御館の碑』です。御は高貴なものにつける言葉、館は大きな建物のことで、齋宮があったときの名残でついている地名だと考えられます。

これは、明治36(1903)年、当時の齋宮村の村長と、地元の方が中心となって、「齋宮旧跡表彰会」を立上げ、齋宮で重要と思われるところに建てた石碑のひとつで、石碑は合計10ヶ所建てられました。

国家の平安を伊勢の地で祈り続けた齋王。その歴史をただ埋もらせていってしまうには、あまりにもったいない。それを称え、後世に伝えようという気持ちによって、今も齋宮は守られ続けています。多くの人の想いが詰まった『御館の碑』ぜひご覧ください。



齋宮周辺の花情報(春)

アヤメ

齋宮跡休憩所前にて



見頃は四月後半から
五月上旬でした。

芝桜

齋宮跡歴史ロマン広場にて



見頃は三月後半から
五月上旬でした。

ノハナシヨウブ

天然記念物指定の群落にて



見頃は五月後半から
六月中旬でした。

シヤクヤク

齋宮跡歴史ロマン広場にて



見頃は五月中旬から
六月上旬でした。

おしらせ

特別展示『よみがえる坂本古墳群』

期間・・・八月六日～九月二十六日
場所・・・ふるさと会館二階の歴史民俗資料館